（1）主題名　公平・公正　〔小学校高４－（３）〕

（2）ねらい　誰に対しても偏見を持つことなく，公正に接していこうとする態度を養う。

（3）資料名　「森川君のうわさ」（出典：新しい道徳　６年・光文書院）

資料の概要

森川君の夏休みの工作作品に，「大工のお父さんが作った」という噂がクラスで広まった。「違う」と思ったが「ぼく」は黙っていた。３学期，卒業記念のオルゴールづくりで，またも森川君に対して噂がわき起こり，無視も始まった。ある日の帰りの会，順子が噂によって仲間はずれをするクラスのみんなに意見を言い始めた。気になりながらも何もできなかった「ぼく」は，順子の後で「ぼくも発言しなくてはいけない」と思っていた。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　夏休みの宿題について意見を発表する。	○夏休みの宿題を思い出して，苦労したものを発表してみよう。 ・工作が難しかった ・ポスターの色塗りが難しかった	○自由な雰囲気で発表させる。
展開	2　資料を読んで森川君のうわさについて考える。	○森川君のうわさはどうして広がったのだろう。 ・上手だったから ・お父さんが大工さんだから ○どうしてそんなうわさが始まったのだろう。 ・うらやましいから ・くやしいから ○だんだん無口になっていく森川君はどんな気持ちだろう。 ・いやだ，さみしい ・どうして口をきいてくれないの ・自分でつくったのに ・だれがうわさを流したのだろう	○工作作品の写真をいくつか掲示する。（本立てを含めて） ○これまでの経験で関連のある事象があれば取りあげて森川君の気持ちに迫らせる。
	3　順子さんの発言を聞いているときの「ぼく」の気持ちを考える。	◎順子さんの発言を聞いている「ぼく」はどんな気持ちでいるだろう。 ・自分には言えなかった，すごい ・自分が情けなくて恥ずかしかった ・森川君に嫌な思いをさせてしまった	○「ぼく」のこれまでの気持ちの経過をおさえる。
	4　この後の「ぼく」の行動を考える。	○このあと「ぼく」はどんな行動をとっただろうか。 ・２学期の時にはっきり言えばよかった，ぼくも悪かったと謝った ・みんなにうわさは違うと言えなかったと発言した	○「ぼく」自身が反省するだけではなく，まわりのみんなに対する意見も出るように揺さぶりをかける。 ○行動は発言に限定しない。
終末	5　本時の感想を書く。	○「うわさ」について，今日の授業で思ったこと，考えたことを書いてみよう。 ・本当かどうか確かめずに話すのはよくない ・うわさは時間では解決しない	○ワークシートに書き込ませる。

実践報告にみる留意事項

1　資料・題材について

不確かな「うわさ」がいじめの始まるきっかけとなることがる。その背景に存在したねたみ意識などが集団で排除しようとするいじめに発展することやうやむやにしては決して解決しないことなどの視点で子どもたちに考えさせることができる。

児童の中にはこれまでに,「うわさ」におもしろ半分で加わったり，いやな思いをしたりした子もいる。その子たちがつらくなる授業にならないように，事前にアンケートなどで実態を把握して，必要に応じて個別指導を行ったり，実施時期を考慮したりする必要がある。

2　指導過程の工夫

導入で、実際の工作作品の写真を提示することで夏休みの作品づくりへのイメージをふくらませた。

展開では、資料を前半，後半場面に区切って提示することで場面の状況を把握しやすかった。

「うわさをする側」「される側」の立場を経験したことのある児童が多いという実態があるなら，資料中心にならないように，児童の生活に視点をあてて，自分たちの生活を見つめる時間をじっくりとって考えさせることがより効果的と考えられる。

終末では、ワークシートを用いて，自分の経験を思いだしながら，本時の振り返りができるように設定した。

3　発問の工夫

うわさが広がっていくときの状況を考えさせるために,「このうわさを森川君は知っていると思いますか。それはなぜですか。」という補助発問を行った。

中心発問については,「ぼく」が誰に対しての思いを強くもっているかを明らかにさせてから，理由を考えさせた。

「ぼく」のこの後の行動を考えさせる発問は，中心発問と重なる部分があるので，考慮する必要があった。

4　児童の反応

「うわさをきいたことがある」児童は約 7 割,「うわさでいやな思いをしたことがある」児童は約 2 割いた。

いやな思いをしたことはいつまでも記憶に残っているが，自分が加害者になったという意識は強く残っていないようだ。経験のある子の発言により，あらためて課題を解決する難しさを考えることができた。

中心発問への発言では,「うわさが始まったときにきちんとした態度をとっておけばよかった。」という内容のものが多かった。

5　授業後のフォローアップ

「うわさ」によるトラブルは，児童の日常生活の中ではよくあることなので，学級指導とあわせて，この学習を意識して生活指導に生かしていく。また，他の「いじめ」の事象と関連させて学級指導を行っていく。

（八次小学校）